

# CA Application Performance Management

Integration for CA CMDB Guide

リリース 9.5



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、  
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

## CA Technologies 製品リファレンス

このドキュメントは、以下の CA Technologies 製品および機能に関するものです。

- CA Application Performance Management (CA APM)
- CA Application Performance Management ChangeDetector (CA APM ChangeDetector)
- CA Application Performance Management ErrorDetector (CA APM ErrorDetector)
- CA Application Performance Management for CA Database Performance (CA APM for CA Database Performance)
- CA Application Performance Management for CA SiteMinder® (CA APM for CA SiteMinder®)
- CA Application Performance Management for CA SiteMinder® Application Server Agents (CA APM for CA SiteMinder® ASA)
- CA Application Performance Management for IBM CICS Transaction Gateway (CA APM for IBM CICS Transaction Gateway)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Application Server (CA APM for IBM WebSphere Application Server)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Distributed Environments (CA APM for IBM WebSphere Distributed Environments)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere MQ (CA APM for IBM WebSphere MQ)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Portal (CA APM for IBM WebSphere Portal)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Process Server (CA APM for IBM WebSphere Process Server)
- CA Application Performance Management for IBM z/OS® (CA APM for IBM z/OS®)
- CA Application Performance Management for Microsoft SharePoint (CA APM for Microsoft SharePoint)
- CA Application Performance Management for Oracle Databases (CA APM for Oracle Databases)

- CA Application Performance Management for Oracle Service Bus (CA APM for Oracle Service Bus)
- CA Application Performance Management for Oracle WebLogic Portal (CA APM for Oracle WebLogic Portal)
- CA Application Performance Management for Oracle WebLogic Server (CA APM for Oracle WebLogic Server)
- CA Application Performance Management for SOA (CA APM for SOA)
- CA Application Performance Management for TIBCO BusinessWorks (CA APM for TIBCO BusinessWorks)
- CA Application Performance Management for TIBCO Enterprise Message Service (CA APM for TIBCO Enterprise Message Service)
- CA Application Performance Management for Web Servers (CA APM for Web Servers)
- CA Application Performance Management for webMethods Broker (CA APM for webMethods Broker)
- CA Application Performance Management for webMethods Integration Server (CA APM for webMethods Integration Server)
- CA Application Performance Management Integration for CA CMDB (CA APM Integration for CA CMDB)
- CA Application Performance Management Integration for CA NSM (CA APM Integration for CA NSM)
- CA Application Performance Management LeakHunter (CA APM LeakHunter)
- CA Application Performance Management Transaction Generator (CA APM TG)
- CA Cross-Enterprise Application Performance Management
- CA Customer Experience Manager (CA CEM)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA eHealth® Performance Manager (CA eHealth)
- CA Insight™ Database Performance Monitor for DB2 for z/OS®
- CA Introscope®
- CA SiteMinder®
- CA Spectrum® Infrastructure Manager (CA Spectrum)

- CA SYSVIEW® Performance Management (CA SYSVIEW)

## CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。



# 目次

---

<b>第 1 章: はじめに</b>	<b>11</b>
このガイドについて.....	11
CA Application Performance Management について.....	11
CA CMDB について.....	12
CA CMDB の統合ソリューション.....	12
CA CEM Integration for CA CMDB について.....	13
CA CMDB と CA CEM.....	14
CA CEM の使用事例.....	15
CA Introscope® Integration for CA CMDB について.....	15
CA CMDB と CA Introscope®.....	16
CA Introscope® の使用事例.....	17
CA CEM と CA CMDB の用語の対応.....	18
CA Introscope® と CA CMDB の用語の対応.....	19
<b>第 2 章: CA CEM Integration for CA CMDB の実装</b>	<b>21</b>
前提条件.....	21
システム要件.....	21
ユーザ権限.....	22
インストール ファイルのダウンロードと解凍.....	23
インストール モード.....	24
GUI モードでのインストール.....	24
コンソールモードでのインストール.....	25
サイレントモードでのインストール.....	26
サイレントインストーラのプロパティ.....	27
CA CEM Integration for CA CMDB のアンインストール.....	28
<b>第 3 章: CA CEM Integration for CA CMDB の設定</b>	<b>29</b>
統合ソリューションの設定.....	29
CEM Configuration.....	30
CA CMDB Configuration.....	32
Log Configuration.....	32
MDR ランチャの設定.....	33
MDR 設定の概要.....	33

---

MDR ランチャの概要.....	33
MDR ランチャの新規データ プロバイダの定義.....	35
<b>第 4 章: CA CMDB と CA CEM の併用</b> .....	<b>39</b>
CA CEM から CA CMDB へのデータのインポート.....	39
[いますぐ実行] の使用.....	39
スケジューラの使用.....	40
CA CMDB を起動して CA CEM 構成アイテムを確認.....	41
CA CMDB 内での CA CEM の起動.....	42
CA CMDB Visualizer による CA CEM データ オブジェクトの参照.....	42
<b>第 5 章: CA Introscope Integration for CA CMDB の実装</b> .....	<b>45</b>
前提条件.....	45
システム要件.....	45
インストーラ コンポーネント.....	46
オペレーティングシステムでの権限.....	46
インストール モード.....	47
ソフトウェアのダウンロードおよび解凍.....	48
GUI モードでのインストール.....	49
インストール結果.....	51
UNIX でのインストール後のタスク.....	52
コンソールモードでのインストール.....	53
サイレントモードでのインストール.....	54
サイレント インストーラのプロパティ.....	55
CA Introscope®-CA CMDB 統合のアンインストール.....	57
<b>第 6 章: CA Introscope®-CA CMDB 統合の設定</b> .....	<b>59</b>
概要.....	59
MDR ランチャの設定.....	60
MDR ランチャの概要.....	60
MDR ランチャの新規データ プロバイダの定義.....	61
設定ユーザ インターフェースの起動.....	64
[CMDB Configuration] タブ.....	64
[Introscope Configuration] タブ.....	65
[Advanced Settings] タブ.....	69
統合設定 UI のその他のタスク.....	70
MDR 設定の完了.....	71

---

<b>第 7 章: CA Introscope® での CA CMDB の使用</b>	<b>73</b>
新しい MDR の確認 .....	73
Introscope メトリックの表示 .....	74
CMDB Visualizer による CA Introscope® データ オブジェクトの表示 .....	75
<b>付録 A: トラブルシューティング</b>	<b>77</b>
CA CEM 統合の確認 .....	77
CA CEM の症状と解決策 .....	79
CA Introscope® 統合の確認 .....	80
CA Introscope® の症状と解決策 .....	81



# 第 1 章: はじめに

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[このガイドについて](#) (P. 11)

[CA Application Performance Management について](#) (P. 11)

[CA CMDB について](#) (P. 12)

[CA CEM Integration for CA CMDB について](#) (P. 13)

[CA Introscope® Integration for CA CMDB について](#) (P. 15)

[CA CEM と CA CMDB の用語の対応](#) (P. 18)

[CA Introscope® と CA CMDB の用語の対応](#) (P. 19)

## このガイドについて

このガイドは、CA Customer Experience Manager™ (CEM) および CA Introscope® Integration for CA Configuration Management Database (CMDB) のインストール、設定、および使用の手順について説明しています。CA CEM、CA Introscope®、および CA CMDB の操作について知識があり、Apache Tomcat サーバについて熟知している必要があります。

## CA Application Performance Management について

CA APM (APM) は、エンドユーザーエクスペリエンスを理解し、サービスレベルアグリーメント (SLA) を測定することを可能にする、効率の高い包括的なアプリケーションパフォーマンス管理戦略を提供します。エンドツーエンドのインフラストラクチャにすべてのトランザクションをマップできます。また、完全に統合された方法を使用してインシデントの問題切り分けと根本原因診断を行うことを可能にします。

CA Introscope® と CA CEM は、CA APM ソリューションの主力製品です。

CA APM を使用して、以下を行うことができます。

- 実際のユーザーエクスペリエンスを理解する。
- ビジネス サービス上で SLA を設定し管理する。
- 100 パーセントのトランザクション可視性を獲得する。
- 問題の原因を迅速に決定する。

- 問題切り分けを行い、重要事項を識別し、根本原因診断を実行する。
- 実際のビジネスインパクトに基づいて、インシデントに優先順位を割り当てる。
- プロアクティブかつ予測型のアプリケーション監視を実現する。
- レポート回数を増やし、改善を継続的に行う。

## CA CMDB について

Configuration Management Database (CMDB) は構成管理システム (CMS) の一部です。CMDB は、環境内の構成アイテム (CI) に関する管理情報の一貫したセットを提供することにより、その他のプロセスをさらに効果的で効率的にします。複数のソースから、CI に関する情報が得られます。CMDB を使用すると、ソースアプリケーションで一般的なサービスコンテキストが共有できるようになり、技術担当チーム間でより良い調整が可能になります。たとえば、CA Service Desk と CA SPECTRUM 間でサービス定義と設定を共有することにより、サービスデスク技術者と運用エンジニアリングチームが根本原因の分析で協力することができます。

CA CMDB を実装する理由の 1 つは、実際に変更を行う前に変更を延期することの影響について、変更管理チームの理解を助けるためです。インシデント管理の観点からは、何が変更されたのかを理解することは、トラブルシューティングのプロセスを速くすることでもあります。環境内で実際にサービスにリンクしている CI を把握することは、環境内での停止や変更による真の影響を管理するために重要です。

## CA CMDB の統合ソリューション

CA CMDB は、企業の IT コンポーネントやサービス、およびそれらの関係を管理する先進的なツールです。CA CMDB により、アセットとアセット間の関係について信頼性の高い最新の詳細情報を提供して保存することが可能になります。これらの関係は、組織内の変更を管理するための重要なツールであるインパクト分析の基盤になります。

USM が提供する主要な情報を利用して、自動または IT スタッフにより、適切なアクションが起こせるようになります。

CA APM の統合は以下の製品と共に使用されます。

- CA CEM-CA CMDB の統合

CA CEM ビジネス サービスと関連するトランザクション定義を CA USM に統合できるため、エンタープライズ プロセス インフラストラクチャ全体の関係と依存関係が可視化されます。専門知識を組み込み、エンタープライズ トランザクションのパフォーマンスを測定、管理します。

- CA Introscope®-CA CMDB の統合

CA Introscope® が監視するアプリケーションオブジェクトを CA USM に統合できるため、エンタープライズ プロセス インフラストラクチャ全体の関係と依存関係が可視化されます。

## CA CEM Integration for CA CMDB について

CA CEM Integration for CA CMDB™ により、CA CEM オブジェクトを定義して、CA CMDB へ統合できるようになります。これらの管理対象オブジェクトは、CA CMDB では構成アイテム (CI) と呼ばれます。

CA CEM は、顧客トランザクションを監視し、データセンターで問題の原因を隔離します。CA CMDB は、IT インフラストラクチャ内のさまざまなコンポーネントとプロセスの関係性を完全に可視化するエンタープライズ IT データベースです。CA CEM と CA CMDB 間の統合により、CA CEM は、その構成を CA CMDB 実装と共有できるようになりました。設定の共有により、ほかの既知のインフラストラクチャ構成との比較でビジネス サービスとトランザクションを CMDB 内で視覚化することが可能になり、問題の切り分けを支援します。

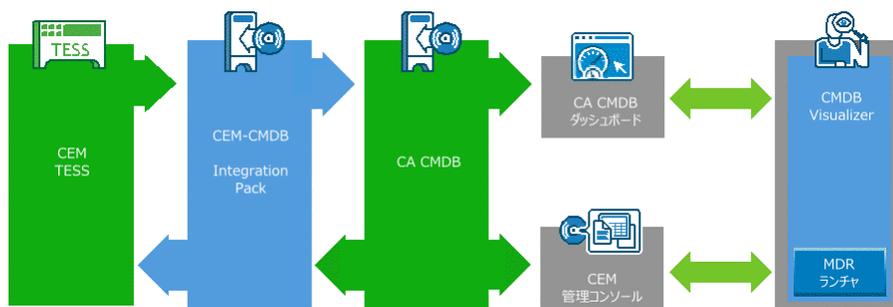
## CA CMDB と CA CEM

CA CEM Integration for CA CMDB は、ビジネス サービスとトランザクションを CA CEM から CA CMDB にインポートするためのツールです。インポートされたデータは、それらの関係と依存関係を持つ構成アイテムの形式になります。統合は Tomcat サービスとして展開され、統合 Web ユーザーインターフェースを使用して設定されます。

CA CEM Integration for CA CMDB は、以下のコンポーネントで構成されます。

- 統合設定 Web インターフェース
- Apache Tomcat Integration Pack

以下の図は、CA CEM の統合または CA CMDB が高レベルで動作する方法を示したものです。



統合により、CA CMDB へ CA CEM の CI（ビジネス サービスおよびビジネス トランザクション）をインポートできるようになります。CI は、すべての関係および依存関係と共に CA CMDB リポジトリで最新の状態に保たれます。CA CMDB Visualizer を使用して、これらの関係および依存関係をグラフィカルに表示できます。CA CMDB では、CA CEM コンソール内の特定のビジネス サービスまたはビジネス トランザクションにリンクするために MDR ランチャを使用できます。

## CA CEM の使用事例

CA CEM Integration for CA CMDB は、以下のビジネス タスクを実行するように設計されています。

- CA CEM のビジネス サービス、ビジネス トランザクション、およびそれらの関係を構成アイテムとして CA CMDB に取り込んで、関連サービスとの調整を促進します。
- エンドユーザエクスペリエンスと CA 統合化サービス モデル内の IT インフラストラクチャパフォーマンス情報を直接リンクさせることによって、サービス中断の分析をより効果的に行うことができます。
- CA CEM のビジネス サービスおよびトランザクション構成アイテム（およびそれらの関係と依存関係）が視覚的に表示されることで、インシデントの解決と変更のインパクト分析のプロセスが合理化されます。

## CA Introscope® Integration for CA CMDB について

CA Introscope® Integration for CA CMDB により、CA CMDB での CA Introscope® アプリケーションオブジェクトの定義および統合が可能になり、それらが構成アイテム (CI) になります。統合により、CA Introscope® が監視するアプリケーションオブジェクトが、ほかの既知のインフラストラクチャ設定のオブジェクトと共に CA CMDB で表示できるようになります。CA Introscope® Integration for CA CMDB は、問題切り分けを支援します。

CA Introscope® はアプリケーション境界のトランザクションを監視し、パフォーマンスのベースラインを識別します。また、IT スタッフがデータセンター内で問題の原因を識別するのに役立ちます。CA CMDB は、IT インフラストラクチャ内のさまざまなコンポーネントとプロセスの関係性を完全に可視化するエンタープライズ IT データベースです。

## CA CMDB と CA Introscope®

CA Introscope®-CMDB の統合は、アプリケーション オブジェクトを CA Introscope® から CA CMDB へインポートするためのツールです。インポートされたオブジェクトは、それらの関係と依存関係を持つ構成アイテムの形式になります。統合は Tomcat サービスとして展開され、設定 Web ユーザ インターフェース (UI) を使用して設定されます。

CA Introscope®-CA CMDB の統合は、以下のコンポーネントで構成されています。

- 統合設定 Web インターフェース
- Apache Tomcat Integration Pack

CA Introscope®-CA CMDB の統合には、以下の機能があります。

- CA Introscope® のアプリケーション構成アイテム (およびそれらの関係と依存関係が視覚的に表示されることで、インシデントの解決と変更のインパクト分析のプロセスを合理化。
- CA Introscope® オブジェクトと CA USM 内の IT インフラストラクチャ パフォーマンス情報を直接リンクさせることによって、サービス中断を分析する機能。
- 特定の CA Introscope® オブジェクトにリンクする MDR ランチャ。

## CA Introscope® の使用事例

CA Introscope®-CA CMDB の統合は、以下の使用事例に適合するように設計されています。

- ITIL (IT インフラストラクチャ ライブラリ。IT 管理のベスト プラクティスを実装するためのソフトウェア ツールを集めたもの) の設定および管理
  - 初期データを生成します。
  - 正式なバージョンと既存の設定とを比較します。
- システム障害の根本原因の分析
  - 複数の製品の関係データを中央の 1 箇所に集約すると、1 つの製品で確認するよりも多くの依存関係を確認することができます。
  - 情報を起動する構成アイテム (CI) の MDR では、同じ CI に登録された CA CMDB に参加している複数の監視対象製品へのクイックアクセスを行えます。
- インパクト分析の変更
  - 複数の製品の関係データを中央の 1 箇所に集約すると、1 つの製品で確認するよりも多くの影響を確認することができます。これには、設定変更の影響および計画されたダウンタイムが含まれます。
- 問題の影響の分析
  - 複数の製品の関係データを中央の 1 箇所に集約すると、1 つの製品で確認するよりも多くの影響を確認することができます。これには、予期しない停止、処理速度の低下、およびシステムの問題の影響が含まれます。

## CA CEM と CA CMDB の用語の対応

用語は製品統合における重要な要素です。以下の表に、CA CEM の用語および定義が CA CMDB の用語にどのように対応するかを示します。

CA Customer Experience Manager の用語	CA CMDB の用語の対応(クラス)	CA CMDB の用語の対応(ファミリー)
ビジネス サービス (関係のみ)	ビジネス サービス	エンタープライズ サービス
ビジネス トランザクション (関係のみ)	ビジネス トランザクション	エンタープライズ トランザクション

製品の統合を行うには、以下の用語の対応を使用します。

### ビジネス サービス

CA CEM ビジネス サービスは、CA CMDB ビジネス サービス クラスに該当します。

### ビジネス トランザクション

CA CEM ビジネス トランザクションは、CA CMDB ビジネス トランザクション クラスに該当します。

CA Introscope®-CA CMDB の統合は、以下の場合、CA Introscope® アプリケーション サーバと CA CEM ビジネス サービスおよびビジネス トランザクションの間の関係を定義します。

- CA CEM の構成アイテムが CA CMDB ですすでに定義されている場合
- CA CEM - CA Introscope® の統合が CA Introscope® で使用されている場合

## CA Introscope® と CA CMDB の用語の対応

以下の表に、CA Introscope® の用語および定義が CA CMDB の用語にどのように対応するかを示します。

CA Introscope® の用語	CA CMDB の用語の対応(クラス)	CA CMDB の用語の対応(ファミリー)
プロセス	アプリケーション サーバ	Software.Application Server
アプリケーションサーバ (ポート)	アプリケーション サーバ イン スタンス	Software.Application Server
アプリケーション (フロント エンド)	アプリケーション インスタ ンス	Software.Application
データベース (バックエン ド)	その他のソフトウェア データ ベース	Software.Database
サーバ (ホスト)	サーバ	Hardware.Server

CA APM の用語の詳細については、「[CA APM 概要ガイド](#)」を参照してください。



# 第 2 章: CA CEM Integration for CA CMDB の実装

---

この章では、CA CEM Integration for CA CMDB をインストールする方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[前提条件 \(P. 21\)](#)

[インストールファイルのダウンロードと解凍 \(P. 23\)](#)

[インストールモード \(P. 24\)](#)

[CA CEM Integration for CA CMDB のアンインストール \(P. 28\)](#)

## 前提条件

CA CEM Integration for CA CMDB を Enterprise Manager ホストおよび CA CMDB ホストとは別のホストにインストールすることをお勧めします。

## システム要件

CA CMDB での CA CEM 統合のシステム要件を以下に示します。

- CA ソフトウェア: CA CMDB システムの要件については、「*Compatibility Guide*」を参照してください。
- 統合コンピュータのリソース要件
  - 最大 125 MB の空きディスク領域
  - 50 MB のメモリ
- サポートされているオペレーティングシステム: オペレーティングシステムの要件については、「*Compatibility Guide*」を参照してください。

## ユーザ権限

統合のインストールには、以下のユーザ権限が必要です。

- **Windows** : CA CEM Integration for CA CMDB をインストールする管理者アクセス権限。

デフォルトのインストールモードは GUI モードです。

- **UNIX**: 任意のディレクトリに統合をインストールする root アクセス権限。root 以外のユーザとしてインストールする場合、インストールパスは `/opt/CAWily` です。これは変更できません。root 以外のユーザの場合、`/opt/CAWily` インストールディレクトリを事前に割り当て、インストールを開始する前に root 以外のユーザにアクセス権限を与えます。

デフォルトのインストールモードはコンソールモードです。インストール後、いったんログアウトしてから再度ログインし、環境変数 `INTEGRATIONPACK_INSTALL_PATH` を設定します。インストール後にコンピュータを再起動する場合は、Tomcat サーバを手動で起動します。

```
<Integration_Home>%apache-tomcat-5.5.25%bin%startup.sh
```

たとえば、`<Integration_Home>` の場所は、以下のようになります。

```
/opt/CAWily/IntegrationPack/
```

## インストール ファイルのダウンロードと解凍

このセクションでは、インストール ファイルをダウンロードして解凍する方法について説明します。

次の手順に従ってください:

1. 適切なインストール アーカイブからインストール ファイルをダウンロードします。

**Windows :**

CAAPM\_CEM\_CMDB\_Integration\_<VersionNumber>Windows\_Installer.zip

**UNIX/Linux :** 適切な .tar ファイルを使用します。

- CA\_APM\_CEM\_CMDB\_Integration\_<VersionNumber>Aix\_Installer.tar
- CA\_APM\_CEM\_CMDB\_Integration\_<VersionNumber>HPUX\_Installer.tar
- CA\_APM\_CEM\_CMDB\_Integration\_<VersionNumber>Linux\_Installer.tar
- CA\_APM\_CEM\_CMDB\_Integration\_<VersionNumber>Solaris\_Installer.tar

2. インストール ファイルを一時フォルダに解凍します。

- **Windows** では `install.exe` を使用し、**UNIX** では `install.bin` を使用します。

これらのファイルはインストーラです。この実行可能ファイルを実行し、インストールを開始します。

- `apache-tomcat-5.5.25.zip`

このファイルはインストール ZIP ファイルであり、インストーラが Apache Tomcat のインストールに使用します。

- `silentInstallerSample.properties`

このプロパティ ファイルには、サイレント インストールの設定情報が含まれます。

- **Windows** では `RemoveJRE.bat` を使用し、**UNIX** では `RemoveJRE.sh` を使用します。

アンインストーラはこれらのスクリプトを使用し、JRE を削除します。

## インストールモード

インストーラは以下のいずれかのモードで実行されます。

- **GUIモード** - このモードでは一連のウィンドウ表示に沿ってインストール作業が進められ、作業完了時には結果の要約が表示されます。インストーラは、**Windows** プラットフォームではデフォルトで **GUI** モードになります。GUIモードをサポートしないオペレーティングシステムでは、コマンドラインまたはインストーラスクリプトを使用してインストーラを実行します。
- **コンソールモード** - このモードでは一連のテキストプロンプト表示に沿ってインストール作業が進められ、作業完了時には結果の要約が表示されます。ビデオカードまたは **Xserver** のないコンピュータにインストールするには、コンソールモードを使用します。**UNIX** プラットフォーム上では、コンソールモードがデフォルトです。
- **サイレントモード** - このモードはコマンドラインから呼び出されます。サイレントモードインストーラは、指定された応答ファイルから入力値を取得します。サイレントモードインストーラを使用すると、複数のインストールを容易に実行できます。このインストーラはバックグラウンドで実行され、結果の出力は行われません。そのため、インストールの結果を確認するには、インストールログを選択する必要があります。

以下のいずれかのインストールモードを使用します。

[コンソールモードでのインストール](#) (P. 25)

[GUIモードでのインストール](#) (P. 24)

[サイレントモードでのインストール](#) (P. 26)

### GUIモードでのインストール

インストーラを起動し、ウィザードを使用して **CA CEM Integration for CA CMDB** をインストールします。

**UNIX** でインストーラを起動するには、以下のコマンドを入力します。

```
install.bin -i gui
```

Windows でインストーラを起動できます。

次の手順に従ってください:

1. インストールファイルを抽出したディレクトリで、*install.exe* ファイルをダブルクリックします。

インストールウィザードが起動します。

2. 以下の情報を入力します。

- インストールフォルダの場所
- Tomcat サーバを使用する管理者の認証情報
- 統合ユーザ認証情報 (Tomcat サーバと同じ認証情報を使用可能)
- Tomcat サーバポート

インストールは終了です。

## コンソールモードでのインストール

コンソールから CA CEM Integration for CA CMDB をインストールするには、以下のコマンドを入力します。

**Windows :** *install.exe -i console*

**UNIX :** *install.bin*

### サイレントモードでのインストール

このセクションでは、サイレントインストールモードを使用して、CA CEM Integration for CA CMDB をインストールする方法について説明します。サイレントモードでインストールする場合、設定値はプロパティファイルから読み込まれるため、ユーザ操作は不要です。インストールは自動で続行されます。

サイレントインストーラに対するユーザ設定値は、*silentInstaller.properties* ファイルに変数のセットとして格納されます。提供された *silentInstallerSample.properties* ファイルを編集して名前を変更するか、または GUI インストールウィザードを使用した以前のインストールで生成された *silentInstaller.properties* ファイルを使用して、これらの変数を設定します。このファイルが *install.exe* と同じディレクトリにない場合は任意の場所にファイルを保存しますが、コマンドを実行する場合はフルパスを含めます。変数の説明については、「[サイレントインストーラのプロパティ \(P. 27\)](#)」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. 以下のいずれかの方法を使用して、*silentInstaller.properties* ファイルを編集および保存します。
  - インストールのダウンロードで提供される *silentInstallerSample.properties* ファイルを編集して保存し、名前を変更します。
  - GUI ウィザードを使用してサイレントインストーラプロパティファイルを生成するには、以下のコマンドを使用します。

#### Windows

```
install.exe -r <installer_properties_filename_with_full_path>
```

#### UNIX

```
install.bin -i gui -r <installer_properties_filename_with_full_path>
```

2. 以下のコマンドを使用して、サイレントモードでのインストールを実行します。

#### Windows

```
install.exe -i silent -f <installer_properties_filename_with_full_path>
```

#### UNIX

```
install.bin -i silent -f <installer_properties_filename_with_full_path>
```

インストールは終了です。

## サイレント インストーラのプロパティ

以下の表では、*silentInstaller.properties* ファイルの変数について説明します。

**重要:** いずれかの変数値が正しく設定されていない場合、インストールが失敗するか、または意図しない結果になる可能性があります。

変数名	説明
USER_INSTALL_DIR	<p>インストール フォルダ。</p> <p>Windows システムでパスを設定する場合、円記号文字は二重にしてエスケープする必要があります。例：</p> <p><i>C:¥¥Program Files¥¥CAWily¥¥Integration</i></p> <p>UNIX では、デフォルトのインストール フォルダは以下のとおりです。</p> <p><i>/opt/CAWily/Integration</i></p>
USER_TOMCAT_INPUT_USER	有効な Tomcat 管理者のユーザ名。空白にすることはできません。
USER_TOMCAT_INPUT_PWD	有効な Tomcat 管理者のパスワード。空白にすることはできません。
USER_TOMCAT_INPUT_CONFIRM_PWD	USER_TOMCAT_INPUT_PWD と同じパスワードを使用します。
USE_SAME_TOMCATUSER_FOR_IP	<p>Integration Pack ユーザに対して、Tomcat ユーザと同じクレデンシャルを使用する場合は、<b>1</b>に設定します。そうでない場合は、<b>0</b>に設定します。</p> <p><b>1</b>に設定した場合は、以下の変数が無視されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ USER_IP_INPUT_USER</li> <li>■ USER_IP_INPUT_PWD</li> <li>■ USER_IP_INPUT_CONFIRM_PWD</li> </ul>
USER_IP_INPUT_USER	有効な統合ユーザ名。この値を空白にすることはできません。また、Tomcat ユーザ名と同じ名前は使用できません。

変数名	説明
USER_IP_INPUT_PWD	有効な統合ユーザパスワード。空白にすることはできません。
USER_IP_INPUT_CONFIRM_PWD	USER_IP_INPUT_PWD と同じパスワードを使用します。
USER_INPUT_LAUNCH_UI	0 に設定します。この値は Windows で設定 UI を起動するために使用されます。ただし、サイレントインストールモードでは設定 UI は起動されません。

## CA CEM Integration for CA CMDB のアンインストール

Windows で CA CEM Integration for CA CMDB をアンインストールするには、  
[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] の順に選択し、Windows のアンインストールプログラムを使用します。

UNIX で CA CEM Integration for CA CMDB をアンインストールするには、以下のアンインストーラ実行可能ファイルを実行します。

```
<Integration_Home>¥CAWily_CEM_CMDB_IntegrationPack¥Uninstall_CAWily_CEM_CMDB_IntegrationPack¥Uninstall_CAWily_CEM_CMDB_IntegrationPack
```

# 第 3 章: CA CEM Integration for CA CMDB の設定

---

この章では、CA CEM Integration for CA CMDB を設定する方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[統合ソリューションの設定](#) (P. 29)

[MDR ランチャの設定](#) (P. 33)

## 統合ソリューションの設定

インストール(GUI モード)の完了後にウィザードの最後の画面で[Launch] チェック ボックスをオンにすると、統合設定 Web インターフェースが開きます。

設定 Web インターフェースを起動するには、以下のいずれかの方法を使用します。

- Windows のデスクトップ上のショートカット アイコンをダブルクリックします。
- 以下の URL を使用します。  
`http://localhost:8082/CA-Wily-CEM-CMDB-IP/`

以下のタブを設定します。

[CEM Configuration](#) (P. 30)

[CA CMDB Configuration](#) (P. 32)

[Log Configuration](#) (P. 32)

## CEM Configuration

この設定タブに、データをインポートするのに必要な特定の CA CEM ホストの設定を入力できます。データは、ここで指定された CA CEM ホストからインポートされます。

- **Delete** — CA CEM ホストリストから、選択したホストを削除します。
- **Run Now** — (スケジューラを使用している場合) スケジュールされた時刻を待たずに、選択された CA CEM ホストの CA CEM データのインポートをすぐに開始します。
- **Add** — CA CEM ホスト設定を追加します。
- **Refresh Status** — 画面を更新します。データインポートのステータスをすぐに参照するには、[Run Now] でデータをインポートした後で [Refresh Status] を使用します。

デフォルトでは、ステータスは 2 分ごとにリフレッシュされます。このデフォルトの間隔は、以下にある *BridgeProperties.xml* ファイルで `<refreshinterval>` の値を編集して変更できます。

```
<Integration_Home>%apache-tomcat-5.5.25%webapps%CA-WiLy-CEM-CMDB-IP%WEB-INF%config
```

このタグの値は秒単位です。

例：

- `<refreshinterval>180</refreshinterval>` — 更新間隔を 3 分に設定します。
- `<refreshinterval></refreshinterval>` — 自動更新を無効にします。

**注:** 設定を更新できるのは一度に 1 人のユーザのみです。あるユーザが更新した後で別のユーザが設定を更新しようとする、競合メッセージが表示されます。現在のユーザがログアウトした後のみ、設定を更新できます。

## CA CEM ホストの追加および管理

このセクションでは、ホストの追加方法について説明します。

次の手順に従ってください:

1. [追加] をクリックします。
2. [Add Host] および [Scheduler] セクションに以下の情報を入力します。
  - Host — CA CEM ホストの完全修飾ホスト名  
(<hostname>.<domainname>) または IP アドレスを入力します。  
**重要: CEM のホスト名のみでは、統合は動作しません。**
  - User — CA CEM Web サービスの接続に使用するユーザ名を入力します。
  - Port — CA CEM ホストのポート番号を入力します。
  - Password — CA CEM Web サービスへの接続を認証するパスワードを入力します。
  - Enable Scheduler — スケジューラを有効にするために選択します。
    - Recurrence — スケジュールされた CA CEM データのインポートは、[Start Time] および [Run Every] の値に基づきます。
    - Run Every (hours) — 指定された開始時刻に開始した後、CA CEM データのインポートはここで指定された頻度 (時間単位) で実行されます。
    - Start Time — サービスが開始するようにスケジュールする時刻を入力します。形式は「MM/dd/yyyy hh : mm aa」(「aa」は AM または PM のプレースホルダ) です。
      - Daily — スケジュールされた CA CEM データのインポートは、指定された実行時間に毎日実行されます。
      - Execution Time — スケジューラが [Daily] にスケジュールされている場合の、CA CEM データのインポートの実行時間です。
    - [Manage CEM Host Specifications] セクションで、特定のホストをクリックしてホスト設定を編集します。
3. [保存] をクリックします。  
ホストが正常に追加されます。

### CA CMDB Configuration

このタブに、データのインポートに必要な特定の CA CMDB ホストの設定を入力します。データは、ここで指定する CA CMDB ホストにロードされます。

CA CMDB ホストを管理するには、以下の情報を入力します。

- Host — CA CMDB がインストールされているホストの名前。
- User — CA CMDB アプリケーションにログインするユーザ名。
- Port — CA CMDB Web アプリケーションがある場所のポート番号。
- Password — CA CMDB ユーザのパスワード。

### Log Configuration

[Log Configuration] タブに CA CEM Integration for CA CMDB ログ構成の設定を入力します。

ログ構成を管理するには、以下のログ構成の設定を入力します。

- **File Size (MB)** — CA CEM Integration for CA CMDB の統合ログ ファイルの最大サイズ (MB 単位)。
- **Level** — CA CEM Integration for CA CMDB ログのログ レベル。設定できるログ レベルは以下のとおりです。
  - **INFO** — 情報メッセージのみ
  - **SEVERE** — 情報およびエラー メッセージ
  - **FINEST** — すべての詳細なメッセージ

ログ ファイルは Tomcat の logs フォルダにあり、*TransferService.0.log* および *TransferService.1.log* と命名されます。

デフォルトの場所は以下のとおりです。

#### Windows

Program Files¥CAWily¥IntegrationPack¥apache-tomcat-5.5.25¥logs

#### UNIX

/opt/CAWily/IntegrationPack/apache-tomcat-5.5.25/logs

アプリケーションの開始時には、*TransferService.0.log* のみが作成されます。このファイルのサイズがファイルサイズの合計（デフォルトでは 1 MB）の半分に到達すると、*TransferService.1.log* が作成されます。*TransferService.0.log* の内容が *TransferService.1.log* に移動され、*TransferService.0.log* でログが続行されます。その後も同様の処理でログが続行されます。

## MDR ランチャの設定

CA CMDB 内で CA CEM を起動すると、MDR ランチャを使用して CA CEM コンソール内の CA CEM 構成アイテムに戻ることができます。

- [MDR 設定の概要](#) (P. 33)
- [MDR ランチャの概要](#) (P. 33)

### MDR 設定の概要

MDR ランチャの設定は、以下の手順で行います。

1. MDR プロバイダを定義します。
2. CA CEM データを CA CMDB にインポートします。
3. CI がインポートされていて、関連付けられている MDR ランチャ ボタンが、各 CI に対して作成されていることを確認します。

### MDR ランチャの概要

管理データ リポジトリ (MDR) は CA CMDB にデータを提供します。MDR ランチャは、CA CMDB から Web ブラウザを使用して、任意の MDR のデータを表示できるようにするオープン統合ツールです。

CA CMDB にはすべての CI のすべての属性が格納されているのではなく、まとめて管理する必要のある最も重要な属性が一元管理されています。変更管理の制御下に置かれている属性は、CA CMDB で管理する属性の好例です。MDR ランチャを使用すると、CA CMDB で管理されていない属性にもアクセスできます。

MDR ランチャが動作するには、CA CMDB がソースの CA CEM との Web ブラウザセッションを開始するための URL を構築する必要があります。

MDR を起動するための URL を構築する場合、CA CMDB は MDR ランチャによって提供される以下のパラメータを使用します。

- ホスト名
- ポート
- パス
- パラメータ
- パスワード

CI に固有の場所を起動する場合は、URL 内の以下の変数が置き換えられます。

- {hostname}
- {federated\_asset\_id}
- {port}
- {user}
- {password}
- {mdr\_name}
- {mdr\_class}
- {class}
- {family}
- {path}
- {name}

## MDR ランチャの新規データプロバイダの定義

データをインポートしている各 CA CEM ホストに対して MDR データ プロバイダを定義します。

次の手順に従ってください:

1. ブラウザで CA CMDB を起動します。
2. [CMDB 管理] をクリックします。
3. [CA CMDB] - [MDR ランチャ] を展開し、[データプロバイダ] をクリックします。

MDR リストが表示され、現在設定されているデータプロバイダが表示されます。

4. [新規作成] をクリックします。  
[MDR 定義の新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
5. [MDR 定義の新規作成] ダイアログボックスで、セットアップ情報に従ってプロパティを入力します。プロパティを以下に示します。

- ボタン名

[構成アイテムの詳細] ウィンドウの [属性] タブに表示されるボタンのラベル。このラベル名は 16 文字（半角）以内です。  
Enterprise Manager のホスト名など、オブジェクトのソースを識別する一意の文字列を使用します。

- MDR 名

[ホスト名] (Enterprise Manager ホストの名前) と同一である必要があります。

- MDR クラス

「CA Wily CEM TESS」である必要があります。

- アクティブ

MDR の作成時にアセットが実行中かどうかを指定します。次のいずれかを指定します。

- アクティブ
- 非アクティブ

**重要:** MDR が動作するためには「アクティブ」である必要があります。

- 所有者

アセットの名前、エイリアス、ロール、グループ、またはほかの所有者。

[所有者] フィールドのラベルをクリックすると、CA CMDB の所有者データベースを検索するダイアログボックスが表示され、その中から選択してこのフィールドに入力できます。

**注:** この [所有者] は CA CMDB 管理者である必要があります。

■ 説明

オプションです。この MDR を説明する任意の文字列です。

■ ホスト名

Enterprise Manager ホストのネットワーク アドレスまたは DNS 名を指定します。

■ ポート

[ホスト名] (Enterprise Manager ホスト) 上で Web サーバが使用するポート番号を指定します。

■ パス

空白のままにしておく必要があります。

■ パラメータ

MDR で目的の CI を識別するために使用するパラメータを指定します。CA CMDB は、この情報を MDR にポストします。以下の情報を入力します。

*{federated\_asset\_id}*

■ ユーザ ID、パスワード

[ユーザ ID] フィールドと [パスワード] フィールドは空白のままにしておきます。

■ コンテキストで起動する URL

このボタンをクリックされると、CA CMDB はこの URL をブラウザで起動します。URL をハードコードするのではなく、以下の値を入力します。

*http://{hostname}:{port}/{parameters}*

6. [保存] をクリックします。

新しい MDR が、[データ プロバイダ] の MDR リストに表示されます。

[ボタン名] フィールドに入力した名前が、[構成アイテムの詳細] ウィンドウの [属性] タブに表示されます。 [CA CMDB を起動して CA CEM 構成アイテムを確認します](#) (P. 41)。

新しい MDR を定義した後

1. [いますぐ実行] をクリックして、CA CEM データをインポートします。 [CA CEM から CA CMDB にデータをインポートします](#) (P. 39)。
2. データインポートが完了したら、CMDB にログインし、CI がインポートされていること、および各 CI に対して MDR ランチャ ボタンが作成されていることを確認します [CA CMDB を起動して CA CEM 構成アイテムを確認します](#) (P. 41)。

CI が複数の CA CEM ソースによって共有されている場合、[CMDB 属性] タブには複数 (作成した MDR プロバイダごとに 1 つ) の MDR ランチャ ボタンがあります。

詳細:

[CA CMDB 内での CA CEM の起動](#) (P. 42)



# 第 4 章: CA CMDB と CA CEM の併用

---

この章では、CA CEM Integration for CA CMDB の機能の使用方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA CEM から CA CMDB へのデータのインポート \(P. 39\)](#)

[CA CMDB を起動して CA CEM 構成アイテムを確認 \(P. 41\)](#)

[CA CMDB 内での CA CEM の起動 \(P. 42\)](#)

[CA CMDB Visualizer による CA CEM データ オブジェクトの参照 \(P. 42\)](#)

## CA CEM から CA CMDB へのデータのインポート

以下のいずれかの操作を実行して、CA CEM データを使用して CA CMDB を更新します。

- [いますぐ実行] を選択する
- スケジューラを使用して、データのインポートを実行する時刻をスケジュールする

特定の CA CEM ホストからのデータをインポートするには、そのホストに対応する MDR プロバイダを CA CMDB 内に作成します（「[MDR ランチャの設定 \(P. 33\)](#)」を参照）。データのインポートが成功したことを確認するには、[CA CMDB を起動して CA CEM 構成アイテムを確認します \(P. 41\)](#)。

### [いますぐ実行]の使用

必要に応じて CA CEM のデータを CA CMDB にインポートするには、[いますぐ実行] を使用します。

次の手順に従ってください:

1. 統合設定 Web インターフェースで、[CA CEM Configuration] タブをクリックします。
2. データのをインポート元の CA CEM ホストを選択し、[いますぐ実行] をクリックすると、データのインポートがすぐに開始されます。
3. データ インポートのステータスを参照するには、[Refresh Status] をクリックします。

デフォルトでは、ステータスは 2 分ごとにリフレッシュされます。必要に応じてリフレッシュするには、[Refresh Status] をクリックします。リフレッシュ間隔の設定方法の詳細については、「[CA CEM の設定 \(P. 30\)](#)」を参照してください。

## スケジューラの使用

スケジューラを使用して、CA CEM のデータで CA CMDB を更新する頻度を指定できます。

次の手順に従ってください:

1. 統合設定 Web インターフェースで、[CA CEM Configuration] タブをクリックします。
2. [Enable Scheduler] チェックボックスをオンにします。
3. データ インポートによる更新を、指定した時間間隔 (Recurrence) または時刻 (Daily) で実行します。
  - Recurrence — CA CEM データによる CA CMDB の更新を実行する開始時刻および時間間隔 ( $n$  時間ごとに実行) を入力します。
  - Daily — データ インポートを実行する時刻を選択します。これで、データ インポートのスケジュールが定義されました。

## CA CMDB を起動して CA CEM 構成アイテムを確認

CA CEM のデータを CA CMDB にインポートした後、CA CEM のデータがインポートされ、CA CMDB が更新されていることを確認します。

次の手順に従ってください:

1. CA CMDB のインストール時に使用した CA CMDB クレデンシャルを使用して、CA CMDB を起動します。  
http://<hostname>:port/
2. CMDB の [スコアボード] タブで、[構成アイテム] - [エンタープライズ サービス] をクリックして、CA CEM ビジネス サービスを表示します。
3. [エンタープライズ トランザクション] をクリックして、CA CEM ビジネス トランザクションを表示します。
4. CA CEM ビジネス サービスおよびビジネス トランザクションが構成アイテム リスト (右側のペイン) に表示されていることを確認します。

CA CMDB では、CA CEM ビジネス サービスは [ビジネス サービス] クラスの下にあり、CA CEM ビジネス トランザクションは [ビジネス トランザクション] クラスの下にあります。

5. 右側のペインで、CA CEM ビジネス サービスまたはビジネス トランザクションを 1 つ選択します。

[構成アイテムの詳細] ウィンドウが表示されます。

6. CMDB の [関係] タブをクリックして、その構成アイテムが CA CMDB 内のほかの CI にどのように関連しているかを確認します。
7. [属性] タブをクリックして属性情報を参照し、任意の MDR ランチャ ボタンをクリックして、その CI を CA CEM コンソールで起動します。

これで CI の確認が完了しました。

CI が複数の CA CEM ソースから照合されている場合には、複数の MDR ランチャ ボタンが表示されることがあります。MDR ランチャ が設定されていない場合には、ボタンは表示されません。(「[Configure the Integration](#) (P. 29)」を参照)。

## CA CMDB 内での CA CEM の起動

CA CEM を起動して CA CEM コンソール内の特定の CI に直接アクセスするには、MDR ランチャを使用します。

次の手順に従ってください：

1. その CI の [構成アイテムの詳細] ウィンドウを開きます。詳細な手順については、「[CA CMDB を起動して CA CEM 構成アイテムを確認 \(P. 41\)](#)」を参照してください。
2. [属性] を選択し、MDR ランチャ ボタンをクリックします。

ボタン名は、「[MDR ランチャの新規データプロバイダの定義 \(P. 35\)](#)」で入力した名前です。1 つの CI が複数の CA CEM ソースから照合されている場合、それぞれの CA CEM ホストごとに個別のボタンが表示されます。それぞれのボタンをクリックすると、対応する CA CEM ホスト内のそのビジネス プロセスまたはビジネス トランザクションを表示するために CA CEM コンソールが起動されます。

CA CEM コンソールはそのオブジェクトを直接開きます。このオブジェクトを開くには、まず CA CEM コンソールにログインします。CA CEM では、ビジネス サービスおよびビジネス トランザクションの障害ステータスの確認や、レポートされたインシデントの確認などの作業を実行できます。

## CA CMDB Visualizer による CA CEM データオブジェクトの参照

CA CEM 構成アイテムおよび構成アイテム間の関係をグラフィカルに表示するには、CA CMDB Visualizer を使用します。CA CMDB Visualizer では、CA CEM ビジネス サービスおよびビジネス トランザクションの CI、およびその CI 間の関係が表示されます。

次の手順に従ってください：

1. その CI の [構成アイテムの詳細] ウィンドウを開きます。詳細な手順については、「[CA CMDB を起動して CA CEM 構成アイテムを確認 \(P. 41\)](#)」を参照してください。
2. [構成アイテムの詳細] ウィンドウで、[Visualizer] ボタン (右上) をクリックします。

Visualizer は、データ オブジェクトおよびそれらの関係をグラフィカルに表示します。

3. 任意の構成アイテムを選択して右クリックすると、オプションのリストが表示されます。

構成アイテムを選択せずに右クリックすると、MDR ランチャは利用できません。CA CEM に関連付けられている CI については、[MDR の起動] を選択すると、元のオブジェクトが含まれる CA CEM コンソールがブラウザで開きます。その後、必要に応じて CA CEM 内を移動できます。



# 第 5 章: CA Introscope Integration for CA CMDB の実装

---

この章では、CA Introscope®-CA CMDB 統合のインストール手順を説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[前提条件 \(P. 45\)](#)

[ソフトウェアのダウンロードおよび解凍 \(P. 48\)](#)

[GUI モードでのインストール \(P. 49\)](#)

[コンソールモードでのインストール \(P. 53\)](#)

[サイレントモードでのインストール \(P. 54\)](#)

[CA Introscope®-CA CMDB 統合のアンインストール \(P. 57\)](#)

## 前提条件

CA Introscope®-CA CMDB 統合を Enterprise Manager ホストおよび CA CMDB ホストとは別のホストにインストールすることをお勧めします。

## システム要件

CA CMDB での CA Introscope® 統合のシステム要件を以下に示します。

- CA ソフトウェア: CA Introscope® および CA CMDB システムの要件については、「*Compatibility Guide*」を参照してください。
- 統合コンピュータのリソース要件
  - 最大 150 MB の空きディスク領域
  - 50 MB のメモリ
- サポートされているオペレーティングシステム: オペレーティングシステムの要件については、「*Compatibility Guide*」を参照してください。
- JRE 1.5 以降

## インストーラコンポーネント

CA Introscope®-CA CMDB 統合では、以下のコンポーネントがインストールされます。

- Apache Tomcat Web サーバ
- 統合用の設定 UI

CA Introscope®-CA CMDB 統合をインストールするホストは選択できません。

## オペレーティング システムでの権限

CA Introscope®-CA CMDB 統合をインストールするには、オペレーティング システムで以下の権限が必要です

- **Windows** : CA Introscope®-CA CMDB 統合をインストールする管理者アクセス権限。
- **UNIX**: 任意のディレクトリに統合をインストールする root アクセス権限。

UNIX でのデフォルトのインストール モードはコンソール モードです。root 以外のユーザとしてインストールする場合、インストールパスは `/opt/CAWily` です。このパスは変更できません。

root 以外のユーザで UNIX プラットフォームにインストールするには、以下の作業が必要です。

1. `/opt/CAWily` ディレクトリを手動で作成します。
2. root 以外のユーザに対して、このディレクトリへのアクセス権限を設定します。

インストール後に以下のタスクを実行します。

1. ログアウトして再度ログインし、`INTEGRATION_INSTALL_PATH` 環境変数を設定します。
2. インストール後にコンピュータを再起動した場合は、以下のスクリプトを実行して Tomcat サーバを手動で起動します。  
`<Integration_Home>%apache-tomcat-5.5.25%bin%startup.sh`

## インストールモード

インストーラは以下のいずれかのモードで実行されます。

- GUI モード - 一連のウィンドウ表示に沿ってインストール作業が進められ、作業完了時には結果の要約が表示されます。

Windows プラットフォームでは、GUI モードがデフォルトです。

GUI モードをサポートしていないオペレーティングシステムでは、コンソールモードまたはサイレントモードでインストーラを強制実行します。

- コンソールモード - 一連のテキストプロンプト表示に沿ってインストール作業が進められ、作業完了時には結果の要約が表示されます。

コンソールモードは、ビデオカードまたは Xserver を持たないコンピュータにインストールする場合に使用します。

UNIX プラットフォーム上では、コンソールモードがデフォルトです。

- サイレントモード - サイレントモードインストーラはコマンドラインから起動します。起動されたインストーラは、指定された応答ファイルから入力値を取得します。サイレントモードインストーラを使用すると、複数のインストールを容易に実行できます。このインストーラはバックグラウンドで実行され、結果の出力は行われません。そのため、インストールの結果を確認するには、インストールログを選択する必要があります。

サイレントモードはすべてのプラットフォームで使用できます。

1 台または少数のコンピュータにインストールする場合は通常、プラットフォームに応じて、GUI モードまたはコンソールモードを使用します。複数のコンピュータにインストールする場合、サイレントモードを使用すると、プロセスを自動化するのに役立ちます。

以下のいずれかのインストールモードを使用します。

[GUI モードでのインストール \(P. 49\)](#)

[コンソールモードでのインストール \(P. 53\)](#)

[サイレントモードでのインストール \(P. 54\)](#)

## ソフトウェアのダウンロードおよび解凍

CA Introscope®-CA CMDB 統合ソフトウェアをダウンロードして解凍します。

次の手順に従ってください:

1. CA APM は、[CA サポート](#) の CA APM ソフトウェア ダウンロード セクションへのリンクが記載されているソフトウェア配信電子メールメッセージをユーザに送信します。このリンクを使用して、ご使用のプラットフォーム用の CA Introscope®-CA CMDB 統合ソフトウェア アーカイブをダウンロードします。
  - Windows —  
CA\_APM\_Introscope\_CMDB\_Integration\_<VersionNumber>Windows\_Installer.zip
  - AIX —  
CA\_APM\_Introscope\_CMDB\_Integration\_<VersionNumber>Aix\_Installer.tar
  - HPUX —  
CA\_APM\_Introscope\_CMDB\_Integration\_<VersionNumber>HPUX\_Installer.tar
  - Linux —  
CA\_APM\_Introscope\_CMDB\_Integration\_<VersionNumber>Linux\_Installer.tar
  - Solaris —  
CA\_APM\_Introscope\_CMDB\_Integration\_<VersionNumber>Solaris\_Installer.tar
2. アーカイブを開いて解凍すると、以下のファイルが作成されます。
  - install.exe — インストーラの実行可能ファイル。
  - apache-tomcat-5.5.25.zip — Apache Tomcat インストーラの実行可能ファイル。
  - silentInstallerSample.properties — サイレント インストール プロセスを使用するときのカスタマイズするプロパティ ファイルのサンプル。サイレント インストールの詳細については、「[サイレント インストーラのプロパティ \(P. 55\)](#)」を参照してください。

## GUI モードでのインストール

インストーラを起動し、ウィザードを使用して CA Introscope®-CA CMDB 統合をインストールします。

UNIX でインストーラを起動するには、以下のコマンドを入力します。

```
install.bin -i gui
```

Windows でインストーラを起動できます。

次の手順に従ってください:

1. インストール ファイルを抽出したディレクトリで、*install.exe* ファイルをダブルクリックします。

インストール ウィザードが開き、順を追ってインストールの手順が示されます。

2. [Install Set] ドロップダウン リストで、[Introscope CMDB Integration Server] を選択します。

[Introscope CMDB Integration Server] を選択すると、[Introscope Integration Pack for CMDB] がデフォルトで選択されます。

3. [Next] をクリックします。
4. CA Introscope®-CA CMDB 統合をインストールする場所を指定します。  
デフォルトのインストールパスは以下のとおりです。

### **Windows**

```
C:\Program Files\CAWily\IntegrationPack
```

### **UNIX**

```
/opt/CAWily/IntegrationPack
```

- a. 別のパスを指定する場合は、[Choose...] をクリックします。
  - b. デフォルトパスを使用する場合は、[Next] をクリックします。
5. 統合設定ユーザ インターフェースを提供するために使用される Apache Tomcat Web サーバ用のユーザ クレデンシアルを入力します。デフォルトでは、これらのクレデンシアルは CI (構成アイテム) Exporter に対して使用されます。

**注:** 統合ユーザに対して別のクレデンシアルを作成する場合は、[Use this user as the Integration Pack user] チェック ボックスをオフにしてください。インストーラが、統合ユーザのユーザ クレデンシアルを要求します。

6. [Next] をクリックします。
7. Tomcat サーバ用の接続ポート番号およびシャットダウンポート番号を入力します。

これらのポート番号は以下の要件を満たす必要があります。

- 1024 ~ 65535 番のポート。
- 使用中ではない。

シャットダウンポートはシャットダウン コマンドのリスンに使用されます。このポートは、ローカルのシャットダウン コマンドのみを受け付けます。

[Next] をクリックすると、インストーラがこれらのポート番号を検証します。これらの要件が満たされていない場合は、インストーラによってエラー メッセージが表示されます。

ポート番号が受け付けられると、インストールが続行されます。

8. インストールプロセスが完了すると、設定 UI を直接起動できるようになります。

[Launch Configuration UI] チェック ボックスをオンにして [Done] をクリックすると、設定 UI が表示されます (「[MDR ランチャの設定 \(P. 60\)](#)」を参照)。

## インストール結果

インストールが成功すると、以下の状態になっています。

- 統合ホスト上の `<Integration_Home>` ディレクトリに CA Introscope®-CA CMDB 統合がインストールされています。
- Apache Tomcat Web サーバは以下のようにになっています。
  - `<Integration_Home>/apache-tomcat-5.5.25` ディレクトリにインストールされています。
  - `[Apache Tomcat for CA APM Integration Packs]` という名前のサービスとして実行されています。
- `<Integration_Home>/apache-tomcat-5.5.25/conf/tomcat-users.xml` ファイルに、新しい INTROSCOPECMDB ロール/ユーザが登録されています。
- `CA-Wily-Introscope-CMDB-IP.war` という `.war` ファイルが、`<Integration-Pack_Home>/apache-tomcat-5.5.25/webapps` ディレクトリにデプロイされています。
- JRE は `<Integration_Home>/jre` ディレクトリにインストールされています。
- `INTEGRATION_INSTALL_PATH` という新しい環境変数が `<Integration_Home>` に設定されています。

注: UNIX で `root` 以外のユーザで統合をインストールした場合、インストールパスの環境変数は設定されていません。`root` 以外のユーザには、`/etc/profile` を編集する権限がありません。

- Windows では、設定 UI ユーティリティのショートカットが以下の場所に作成されています。
  - `<USER_INSTALL_DIR>¥<PRODUCT_DIR>` ディレクトリ内
  - デスクトップ上
- UNIX で `root` 以外のユーザで統合をインストールした場合、CA Introscope®-CA CMDB 統合は以下のデフォルトの場所にインストールされます。  
`/opt/CAWily/IntegrationPack`

### UNIX でのインストール後のタスク

インストール後に以下のタスクを実行します。

1. ログアウトして再度ログインし、*INTEGRATION\_INSTALL\_PATH* 環境変数を設定します。
2. インストール後にコンピュータを再起動した場合は、以下のスクリプトを実行して Tomcat サーバを手動で起動します。

```
<Integration_Home>%apache-tomcat-5.5.25%bin%startup.sh
```

## コンソール モードでのインストール

このセクションでは、コンソール モードを使用して CA Introscope®-CA CMDB 統合をインストールする方法について説明します。

次の手順に従ってください:

1. 以下コマンドを入力します。

Windows の場合 :

```
install.exe -i console
```

UNIX の場合 :

```
install.bin
```

インストーラは、ご使用のシステムがインストールの要件を満たしているかどうかを検証します。

**注:** 要件が満たされていない場合、インストーラは終了します。

ご使用のシステムが要件を満たしている場合は、コンソール インストールが起動されます。

2. [Choose Product Features] 画面でインストールする機能を選択し、Enter キーを押します。

**重要:** [CA Introscope®-CA CMDB Integration] はデフォルトで選択されているため、変更しないでください。

3. 選択した機能をインストールするには、[Yes] をクリックします。
4. CA Introscope®-CA CMDB 統合をインストールするシステム上のパスを指定します。デフォルトのパスは **C:¥Program Files¥CAWily¥IntegrationPack** です。
5. Apache Tomcat Web サーバ用のユーザ クレデンシャルを入力します。デフォルトのユーザ名は「admin」です。空のパスワードは指定できません。
6. 以下のいずれかを選択します。
  - 1 : CA Introscope®-CA CMDB 統合のユーザと Apache Tomcat Web サーバのユーザの両方で同じクレデンシャルを使用する場合。
  - 2 : CA Introscope®-CA CMDB 統合のユーザに対して別のクレデンシャルを指定する場合。
7. Tomcat で使用するポートを指定します。Tomcat の接続ポートのデフォルトは 8082 で、Tomcat のシャットダウンポートのデフォルトは 8005 です。

8. サマリを確認した後、Enter キーを押してインストールを開始します。  
インストールが完了したことを通知するメッセージが表示されます。

詳細:

[インストール結果 \(P. 51\)](#)

## サイレントモードでのインストール

サイレント インストーラを使用するには、以下の手順に従います。

1. ほかのインストーラで通常ユーザの入力が求められる情報を記載したプロパティ ファイルを準備します。
2. サイレント インストーラを実行します。サイレント インストーラは、*silentInstaller.properties* ファイルから値を読み取ります。

ソフトウェアアーカイブには、サンプル ファイル *silentInstallerSample.properties* が含まれています。このファイルをインストーラ プロパティ ファイルのテンプレートとして使用できます。または、GUI インストーラまたはコンソール インストーラの実行時に生成される *silentInstaller.properties* ファイルを使用することもできます。（「[サイレント インストーラのプロパティ \(P. 55\)](#)」を参照。）

次の手順に従ってください:

1. 以下のいずれかの方法を使用して、*silentInstaller.properties* ファイルを準備します。
  - ダウンロードしたソフトウェアアーカイブで提供されている *silentInstallerSample.properties* ファイルを編集して保存します。  
このファイルでは、個々の設定プロパティについて説明しています。  
このファイルは、任意のファイル名で任意の場所に保存できます。このファイルが *install.exe* と同じディレクトリに置かれていない場合は、コマンドの実行時にフルパスで指定します。
  - 以下のコマンドを実行して、GUI ウィザードを使用してサイレント インストーラ プロパティ ファイルを生成します。

Windows の場合 :

```
install.exe -r <installer_properties_filename_with_full_path>
```

UNIX の場合 :

```
install.bin -i gui -r <installer_properties_filename_with_full_path>
```

- 以下のコマンドを入力して、インストールを実行します。

Windows の場合 :

```
install.exe -i silent -f <installer_properties_filename_with_full_path>
```

UNIX の場合 :

```
install.bin -i silent -f <installer_properties_filename_with_full_path>
```

サイレントインストーラが失敗した場合、*silent.install.failed.txt* ファイルが作成されます。

## サイレントインストーラのプロパティ

以下の表では、サイレントインストーラのプロパティファイルで 사용되는変数について説明します。

**重要:** いずれかの変数値が正しく設定されていない場合、インストールが失敗するか、または意図しない結果になる可能性があります。インストーラファイルを編集する際には十分に注意してください。

変数名	説明
USER_INSTALL_DIR	インストールフォルダ。 Windows システムでパスを設定する場合、円記号文字は二重にしてエスケープする必要があります。例： <i>C:¥¥Program Files¥¥CAWily¥¥IntegrationPack</i> UNIX では、デフォルトのインストールフォルダは以下のとおりです。 <i>/opt/CAWily/IntegrationPack</i>
USER_TOMCAT_INPUT_USER	有効な Tomcat 管理者のユーザ名。空白にすることはできません。
USER_TOMCAT_INPUT_PWD	有効な Tomcat 管理者のユーザ名。空白にすることはできません。
USER_TOMCAT_INPUT_CONFIRM_PWD	USER_TOMCAT_INPUT_PWD と同じパスワードを使用します。

USE_SAME_TOMCATUSER_FOR_IP	<p>Integration Pack ユーザに対して、Tomcat ユーザと同じクレデンシャルを使用する場合は、1 に設定します。そうでない場合は、0 に設定します。</p> <p>1 に設定した場合は、以下の変数が無視されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ USER_IP_INPUT_USER</li> <li>■ USER_IP_INPUT_PWD</li> <li>■ USER_IP_INPUT_CONFIRM_PWD</li> </ul>
USER_IP_INPUT_USER	<p>有効な Integration Pack ユーザの名前。この値を空白にすることはできません。また、Tomcat ユーザ名と同じ名前は使用できません。</p>
USER_IP_INPUT_PWD	<p>有効な Integration Pack ユーザのパスワード。この値を空白にすることはできません。</p>
USER_IP_INPUT_CONFIRM_PWD	<p>USER_IP_INPUT_PWD と同じパスワードを使用します。</p>
USER_INPUT_LAUNCH_UI	<p>0 に設定します。この値は Windows で設定 UI を起動するために使用されます。ただし、サイレントインストールモードでは設定 UI は起動されません。</p>
IA_EM_HOME_DIR	<p>Introscope のインストールフォルダ</p> <p>この表で上述しているとおり、Windows システムでパスを設定する場合、円記号文字は二重にしてエスケープする必要があります。</p>
USER_TOMCAT_CONNECTION_PORT	<p>Tomcat 接続ポート。デフォルトは 8082 です。</p>
USER_TOMCAT_SHUTDOWN_PORT	<p>Tomcat シャットダウンポート。デフォルトは 8005 です。</p>

## CA Introscope®-CA CMDB 統合のアンインストール

Windows 用の CA Introscope® Integration for CA CMDB をアンインストールするには、以下のいずれかの手順を実行します。

- `¥CAWily_Introscope_CMDB_IntegrationPack¥Uninstall_CA Wily_Introscope_CMDB_IntegrationPack¥Uninstall CAWily_Introscope_CMDB_IntegrationPack.exe` を実行します。
- Windows の [プログラムの追加と削除] コントロールパネルからアンインストーラを起動します。

UNIX 用の CA Introscope® Integration for CA CMDB をアンインストールするには、

```
<Integration_Home>/CAWily_Introscope_CMDB_IntegrationPack/Uninstall_CA  
Wily_Introscope_CMDB_IntegrationPack/Uninstall  
CAWily_Introscope_CMDB_IntegrationPack.exe ファイルから  
Uninstall_CA Wily_Introscope_CMDB_IntegrationPack を実行します。
```

**注:** コンピュータ上に複数の統合がインストールされている場合、アンインストーラはアラートを送信します。アンインストール中に Tomcat Web サーバが再起動されるため、ほかの統合製品のパフォーマンスに影響を与える可能性があります。



# 第 6 章: CA Introscope®-CA CMDB 統合の設定

---

この章では、CA Introscope®-CA CMDB 統合を設定する手順について説明します。

**重要:** ここに記載されている順序でタスクを実行してください。CA CMDB から統合設定ユーザ インターフェイスに切り替え、その後 CA CMDB に戻る必要があります。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[概要 \(P. 59\)](#)

[MDR ランチャの設定 \(P. 60\)](#)

[MDR ランチャの新規データ プロバイダの定義 \(P. 61\)](#)

[設定ユーザ インターフェイスの起動 \(P. 64\)](#)

## 概要

この CA Introscope®-CA CMDB 統合を CA CMDB と共に使用する標準的な方法を以下に示します。

1. CA CMDB 内で、Enterprise Manager を MDR ランチャのデータ プロバイダとして定義します。

これによって、後から Enterprise Manager に接続するために使用できる URL を生成できるようになります。（「[MDR ランチャの設定 \(P. 60\)](#)」を参照）。

2. 統合設定ユーザ インターフェイスを起動し、Enterprise Manager 用の接続プロパティおよび認証プロパティを設定します。（「[新規 Enterprise Manager ホストの追加 \(P. 66\)](#)」を参照。）

3. 設定 Web インターフェイスを使用して統合を設定します（「[統合設定ユーザ インターフェイスの起動 \(P. 64\)](#)」を参照）。

4. 統合設定 UI でデータ インポートを実行して、Enterprise Manager および監視対象のアプリケーションを CA CMDB の構成アイテムとして定義します。（「[CA Introscope® データのインポート](#) (P. 68)」を参照。）
5. CA CMDB 内で、以下の手順を実行します。
  - a. Enterprise Manager の構成アイテム (CI) を表示します。
  - b. MDR ランチャを使用して Workstation の Java Web Start を起動し、各 CI を表示します。

## MDR ランチャの設定

CA CMDB 内で CA Introscope® を起動すると、MDR ランチャ を使用して CA Introscope® コンソール内の CA Introscope® 構成アイテムに戻ることができます。

### MDR ランチャの概要

管理データリポジトリ (MDR) は、構成アイテムに関する情報を収集する任意のシステムまたはシステム オブジェクトです。CA Introscope®-CA CMDB 統合のコンテキストでは、MDR は、Enterprise Manager のインスタンスおよびそのインスタンスに属するすべてのオブジェクトを表し、以下のアイテムが含まれます。

- Enterprise Manager ホスト
- アプリケーション サーバ上にデプロイされている間、CA Introscope® でパフォーマンスが監視されるアプリケーション
- それらのアプリケーションのホスト
- これらのオブジェクトはすべてのメトリックをレポートします。

MDR ランチャでは、CA CMDB でブラウザを使用して、任意の MDR からデータを表示することができます。

**注:** CA CMDB は、アプリケーション サーバプラットフォーム以外にデプロイされているアプリケーションからのデータのインポートおよび表示は行いません。

## MDR ランチャの使用

CA CMDB にはすべての構成アイテムのすべての属性が格納されているのではなく、まとめて管理する必要のある最も重要な属性が一元管理されています。変更管理の制御下に置かれている属性は、CA CMDB で管理する属性の好例です。

CA CMDB で管理されていない属性にアクセスするには、MDR ランチャを使用します。

MDR ランチャおよびその使用方法の詳細については、「*CA CMDB 管理者ガイド*」を参照してください。

## MDR ランチャの新規データプロバイダの定義

以下の手順では、データをインポートしている各 Enterprise Manager ホストに対して MDR データ プロバイダを定義します。

1. ブラウザで CA CMDB を起動します。
2. [CMDB 管理] タブをクリックします。
3. [CA CMDB] - [MDR ランチャー] を展開し、[データ プロバイダ] をクリックします。

[管理データ リポジトリ (MDR) リスト] が表示され、現在設定されているデータ プロバイダが表示されます。
4. [新規作成] をクリックします。

[MDR 定義の新規作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [MDR 定義の新規作成] ダイアログ ボックスで、セットアップ情報に従ってプロパティを入力します。プロパティを以下に示します。
  - ボタン名

[構成アイテムの詳細] ウィンドウの [属性] タブに表示されるボタンのラベル。このラベル名は 16 文字（半角）以内です。  
Enterprise Manager のホスト名など、オブジェクトのソースを識別する一意の文字列を使用します。
  - MDR 名

[ホスト名] (Enterprise Manager ホストの名前) と同一である必要があります。
  - MDR クラス

「CA Wily Introscope」である必要があります。
  - アクティブ

MDR の作成時にアセットが実行中かどうかを指定します。次のいずれかを指定します。

    - アクティブ
    - 非アクティブ

注: MDR が動作するためには「アクティブ」である必要があります。

- 所有者

アセットの名前、エイリアス、ロール、グループ、またはほかの所有者。

[所有者] フィールドのラベルをクリックすると、CA CMDB の所有者データベースを検索するダイアログ ボックスが表示され、その中から選択してこのフィールドに入力できます。

注: この [所有者] は CA CMDB 管理者である必要があります。

- 説明

オプションです。この MDR を説明する任意の文字列です。

- ホスト名

Enterprise Manager ホストのネットワーク アドレスまたは DNS 名を指定します。

- ポート

[ホスト名] (Enterprise Manager ホスト) 上で Web サーバが使用するポート番号を指定します。

- パス

空白のままにしておく必要があります。

- パラメータ

MDR で目的の CI を識別するために使用するパラメータを指定します。CA CMDB は、この情報を MDR にポストします。以下の情報を入力します。

*{federated\_asset\_id}*

- ユーザ ID、パスワード

[ユーザ ID] フィールドと [パスワード] フィールドは空白のままにしておきます。

- コンテキストで起動する URL

このボタンをクリックされると、CA CMDB はこの URL をブラウザで起動します。URL をハードコードするのではなく、以下の値を入力します。

*http://{hostname}:{port}/{parameters}*

6. [保存] をクリックします。

新しい MDR が、[データ プロバイダ] の MDR リストに表示されます。

## 設定ユーザ インターフェースの起動

CA Introscope®-CA CMDB 統合の GUI インストーラを使用する場合、ウィザードの最後の画面で[Launch]チェック ボックスがオンになっていると、インストールの完了時に統合設定ユーザ インターフェースが開きます。CA CMDB 内での手順が完了していることが、設定ユーザ インターフェースに進むための前提条件であるため、この UI が開かないことがあります。

インストーラ以外から設定 Web インターフェースを起動するには、以下のいずれかの方法を使用します。

- Windows のデスクトップ上のショートカットアイコンをダブルクリックします。
- 統合のインストール時にデフォルト値を選択した場合には、ブラウザで以下の URL を使用することもできます。  
`http://localhost:8082/CA-Wily-Introscope-CMDB-IP/`

### [CMDB Configuration]タブ

このタブでは、CA Introscope® データのインポート先の CMDB ホストの設定を入力します。

次の手順に従ってください:

1. 以下の値を入力します。
  - Host  
CMDB のホスト名。
  - User  
CMDB のユーザ ID。

- Port

CMDB Web アプリケーションが使用する CMDB ホスト上のポート番号。

- Password

CMDB ユーザのパスワード。

2. [Save] をクリックします。

ユーザ クレデンシャルが検証されます。クレデンシャルが無効な場合は、エラーメッセージが表示されます。クレデンシャルが有効であり、接続が確立されると、成功メッセージが表示されます。

## [Introscope Configuration] タブ

[Introscope Configuration] タブを使用して、CA CMDB へのメトリックのインポート元となる特定の CA Introscope® ホスト用の設定を入力します。

**重要:** CA Introscope®-CA CMDB 統合を初めて使用する場合、または Enterprise Manager ホストが設定されていない場合は、Enterprise Manager ホストの情報を入力する前に CA CMDB ホストの情報を入力します（「[\[CMDB Configuration\] タブ \(P. 64\)](#)」を参照）。

[Introscope Configuration] タブでは、以下の機能を実行できます。

- Run Now

スケジュールされた時刻を待たずに、選択したホストからの CA Introscope® メトリックのインポートをすぐに開始します。

- Refresh Status

自動リフレッシュ（デフォルトでは 2 分間隔）を待たずに、ホストステータスをすぐに更新します（「[Last Run Status ス \(P. 70\)](#)」を参照）。

- Add

Introscope ホストの設定を追加します。

- Delete

Introscope ホストリストから選択したホストを削除します。

- **Cancel Now**

選択したホストに対して実行されているタスクをキャンセルします。

- **Edit**

ハイパーリンクが設定されている名前をクリックし、その EM ホストの設定を編集します。

- **Sort Arrows**

昇順または降順で並べ替えます。

### 新規 Enterprise Manager ホストの追加

ホストを追加するには、以下の手順に従います。

1. [Add] をクリックします。
2. [Add EM Host] セクションおよび [Scheduler] セクションに値を入力します。
3. [OK] をクリックします。

[Add EM Host] セクションに以下のフィールドが表示されます。

- **Host**

Enterprise Manager ホストの名前。

- **User**

Enterprise Manager ユーザの名前。

- **Port**

Enterprise Manager で Web サービス クライアントとの通信に使用されるポート番号。デフォルトは **8081** です。

- **Password**

Enterprise Manager ユーザのパスワード。

- **[Enable Scheduler] チェック ボックス**

オンにすると、スケジューラが有効になります。

Enterprise Manager からの自動的なデータ インポートをスケジュールする場合は、[Enable Scheduler] チェック ボックスをオンにします。

スケジューラ コントロールは、以下のとおりです。

- [Recurrence] または [Daily]  
次のいずれかを選択します。
  - Recurrence — CA CMDB は、この Introscope ホストからのデータ インポートを、[Start Time] から開始して、 $n$  時間ごとに（次の項目を参照）実行します。
  - Daily — CA CMDB は、この Introscope ホストからのデータ インポートを、[Execution Time] に毎日実行します。
- Run Every (hours)  
この値（時間単位）で指定された時間間隔で CA Introscope® データ インポートを実行します。
- Start Time  
形式は「MM/dd/yyyy hh : mm aa」（「aa」は AM または PM のプレースホルダ）です。[Start Time] の設定には、カレンダー ウィジェットを使用します。
- Execution Time  
スケジューラが [Daily] に設定されている場合の、スケジュールされた CA Introscope® データ インポートの実行時刻です。
- [Recurrence] を選択する場合は、次の値を設定します。
  - 開始時刻
  - 繰り返し間隔

データ リフレッシュの繰り返しの [Start Time] を設定します。

次の手順に従ってください:

1. [calendar] ボタンをクリックします。  
カレンダー ウィジェットが開きます。
  - a. [Current date] をクリックし、日付と時刻を設定します。
  - b. 上矢印と下矢印を使用して、時刻を調整します。
2. 月と年のコントロールを使用するか、またはスクロールして、月を選択します。
3. [Time] ペインで時刻を入力するか、または [Time] フィールドの右側にある上矢印/下矢印を使用して、時刻を設定します。  
[Time] ペイン内の各フィールドを強調表示してから、上矢印/下矢印を使用して、フィールドの値を調整します。
  - hour
  - minute
  - second
  - AM/PM
4. [OK] をクリックします。  
繰り返しの [Start Time] が更新されます。

## CA Introscope® データのインポート

CMDB ホストおよび少なくとも 1 つの Enterprise Manager ホストを追加した後、Enterprise Manager からデータをインポートします。このデータによって、Enterprise Manager および Enterprise Manager が監視するアプリケーションを、CA CMDB が構成アイテムとして表すことができるようになります。

次の手順に従ってください:

1. [Introscope Configuration] タブをクリックします。
2. データのインポート元の Enterprise Manager を選択します。
3. [Run Now] をクリックします。  
データがインポートされます。

## [Advanced Settings] タブ

このタブでは、以下の設定を入力します。

- CA Introscope®-CA CMDB 統合のログ
- 自動リフレッシュ間隔

デフォルトでは、ログ ファイルは Tomcat の *logs* フォルダに保存されます。

### Windows

`<Integration_home>%apache-tomcat-5.5.25%logs`

### UNIX

`/opt/CAwily/IntegrationPack/apache-tomcat-5.5.25/`

ログ ファイル名には、世代を表す数字が使用されます。アプリケーションの開始時には、*IscopeTransferService.0.log* のみが作成されます。このファイルのサイズがファイルサイズの合計（デフォルトでは 1 MB）の半分に到達すると、*IscopeTransferService.1.log* が作成されます。

*IscopeTransferService.0.log* の内容は *IscopeTransferService.1.log* に移動されます。ログは *IscopeTransferService.0.log* で続行されます。その後も同様の処理でログが続行されます。

[Advanced Settings] タブでは以下の値を設定できます。

- Log File Size (MB)  
作成されるログ ファイルの最大サイズ。
- Log level  
ログ ファイルの内容の精度を以下のいずれかに設定します。
  - INFO — 情報メッセージのみ
  - SEVERE — 情報およびエラー メッセージ
  - FINEST — すべての詳細なメッセージ

- **Auto-Refresh Interval**

ステータス画面が自動的にリフレッシュされる時間間隔。デフォルトは2分です。

自動リフレッシュを無効にするには、このフィールドを空にしておきます。

## 統合設定 UI のその他のタスク

設定 UI を使用して、一連のその他のタスクを実行できます。以下のセクションでは、これらのタスクの詳細について説明します。

### 設定されたホストの管理

設定済みの Enterprise Manager ホストを管理するには、そのホストをクリックし、[Manage Introscope Host Specifications] セクション内の設定を編集します。

**注:** 複数のユーザが同時に設定を更新することは許可されていません。あるユーザが設定を正常に更新した後に、別のユーザがその設定を更新しようとする、競合メッセージが表示されます。すでにログイン中のユーザがログアウトした後に再度ログインすると、そのユーザは設定を更新できるようになります。

### 最終実行ステータス

[Introscope Configuration] タブには、リスト表示されている各 Enterprise Manager ホストでの最終データ リフレッシュ要求のステータスが表示されています。このステータスは以下のいずれかです。

- IN PROGRESS
- SUCCESS
- FAILED

必要に応じてステータスをリフレッシュするには、[Refresh Status] をクリックします。

[Refresh Status] をクリックすると、[Last Run Status] および [Last Run Time] がすぐに更新されます。

**注:** ステータスは、デフォルトでは 120 秒 (2 分) ごとに自動的にリフレッシュされます。

## MDR 設定の完了

MDR 設定を完了するには、CA Introscope®-CA CMDB 統合設定 UI を使用して、CA Introscope® データのインポートを実行します。

次の手順に従ってください:

1. 以下のいずれかの方法で CA Introscope®-CA CMDB 統合設定 UI を開きます。
  - Windows のデスクトップ上のショートカットアイコンをダブルクリックします。
  - CA Introscope®-CA CMDB 統合のインストール時にデフォルト値を選択した場合には、以下の URL を使用することもできます。  
`http://localhost:8082/CA-Wily-Introscope-CMDB-IP/`
2. [Run Now] を使用して CA Introscope® データをインポートします。  
これで、MDR 設定が完了しました。



# 第 7 章: CA Introscope® での CA CMDB の使用

---

この章では、CA Introscope®-CA CMDB 統合の機能の使用方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[新しい MDR の確認 \(P. 73\)](#)

[CMDB Visualizer による CA Introscope® データ オブジェクトの表示 \(P. 75\)](#)

## 新しい MDR の確認

CA Introscope®-CA CMDB 統合で、CA Introscope® データが CA CMDB の構成アイテム (CI) としてインポート済みであり、各 CI に MDR ランチャ ボタンが作成されていることを確認します。

次の手順に従ってください:

1. CA CMDB にログインします。
2. CA CMDB の [スコアボード] タブで、左側のペインにある構成アイテムのリストを展開します。
3. 構成アイテムのリストで、Enterprise Manager に関連付けられている構成アイテムを見つけます。
4. 特定の構成アイテムの名前をクリックすると、その構成アイテムの詳細ボタンおよび MDR ランチャ ボタンが参照されます。

## Introscope メトリックの表示

MDR ランチャ ボタンを使用して、Introscope Workstation を起動します。

1. MDR ランチャ ボタンをクリックします。  
[CA Introscope Workstation] が表示されます。
2. 構成アイテムのリストで、Enterprise Manager ホストを見つけます。
3. Enterprise Manager ホスト名をクリックします。  
[構成アイテムの詳細] ウィンドウが表示されます。
4. MDR ランチャ ボタンをクリックします。

CA CMDB は、その MDR に対して設定されている URL を Enterprise Manager に送信し、ブラウザのポップアップを使用して Introscope Workstation を起動しようとします。

注: CMDB ホストに対してポップアップを許可した後、上記の手順を繰り返します。

CA CMDB は、使用可能なバージョンの Java がご使用のコンピュータにインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合には、Java1.6 の正しいバージョンのインストールを試行します。

5. プロンプトに同意して、インストールを続行します。  
CA CMDB が正しいバージョンの Java を検出すると、Java Web Start を使用して CA Introscope® Workstation のインスタンスを起動します。Introscope Workstation の[接続]ダイアログ ボックスが表示されます。
6. [接続] をクリックします。  
Workstation は Enterprise Manager への接続を開始し、Enterprise Manager へのログイン ダイアログ ボックスが表示されます。
7. Enterprise Manager のユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

Introscope Workstation が表示されます。

Introscope メトリックを表示するには、Introscope Workstation を使用します。

注: Introscope Workstation の使用方法については、「Introscope Workstation ユーザガイド」を参照してください。

## CMDB Visualizer による CA Introscope® データオブジェクトの表示

CA Introscope® 構成アイテムおよび構成アイテム間の関係をグラフィカルに表示するには、CA CMDB Visualizer を使用します。CA CMDB Visualizer は CA Introscope® の CI およびそれらの関係を表示します。

次の手順に従ってください:

1. [構成アイテムの詳細] ウィンドウ内の [Visualizer] ボタンをクリックします。

Visualizer は、以下のデータ オブジェクトおよびそれらの関係をグラフィカルに表示します。

- Introscope Enterprise Manager ホスト。
- Webapp バックエンド データベース。
- アプリケーション サーバのプロセス。
- アプリケーション サーバを監視するエージェント。
- 右クリックすると [オプション] メニューが表示されます。

注: 赤い枠線は、選択されているエレメントを示します。

2. 前記の図に示されている [オプション] メニューを表示するには、以下の操作を行います。

- a. Visualizer 内のアイテムを左クリックして選択します。

アイテムを選択すると、前記の図に示されているように、赤い枠線が表示されます。

- b. 選択したアイテムを右クリックすると、メニューが表示されます。

注: アイテムを選択せず右クリックすると、[オプション] メニューは表示されません。

Visualizer から Introscope Workstation を起動するには、以下の手順に従います。

1. [オプション] メニューが開いている状態で、[MDR の起動...] を選択します。

MDR ランチャ ウィンドウが表示されます。

2. そのリストで MDR を選択し、[起動] をクリックします。

Introscope Workstation が、ブラウザのポップアップを使用して開きます。

3. 必要に応じて、CMDB ホストに対してポップアップを許可した後、上記の手順を繰り返します。

CA CMDB は、使用可能なバージョンの Java がご使用のコンピュータにインストールされているかどうかを確認するプロセスを起動します。インストールされていない場合には、正しいバージョンのインストールを試行します。

4. プロンプトに同意して、インストールを続行します。

Introscope Workstation の[接続]ダイアログ ボックスが表示されます。正しいバージョンの Java が検出されると、CA CMDB は Java Web Start を使用して Introscope Workstation を開始します。

5. [接続] をクリックします。

Workstation は Enterprise Manager への接続を開始し、Enterprise Manager へのログインダイアログ ボックスが表示されます。

6. Enterprise Manager のユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

Introscope Workstation が表示されます。

Introscope メトリックを表示するには、Introscope Workstation を使用します。Workstation の使用方法については、「*Introscope Workstation ユーザガイド*」を参照してください。

# 付録 A: トラブルシューティング

---

このセクションでは、統合のトラブルシューティングを行うための確認手順の概要およびトラブルシューティングの方法を示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA CEM 統合の確認 \(P. 77\)](#)

[CA CEM の症状と解決策 \(P. 79\)](#)

[CA Introscope® 統合の確認 \(P. 80\)](#)

[CA Introscope® の症状と解決策 \(P. 81\)](#)

## CA CEM 統合の確認

統合が実行中であることを確認するには、いくつかの方法があります。

1. CA CEM が実行中であることを確認します。
2. CA CMDB が実行中であることを確認します。
3. CA CEM Integration for CA CMDB が実行中であることを確認します。必要に応じて、Tomcat サーバを再起動します。
4. Apache Tomcat Integration Pack サービスがインストールされ開始されていることを確認します。

このサービスは、インストール時に指定した接続ポートを使用しています。（Apache Tomcat Integration Pack サービスは Windows にのみ提供されています）

5. ログ ファイルを確認します。

インストール ログ ファイルは以下の場所にあります。

<IntegrationPack\_Home>%CAAPM\_CEM\_CMDB\_IntegrationPack\_InstallLog.log

<Integration\_Home> の場所は以下のとおりです。

**Windows**

C:%Program Files%CAWily%IntegrationPack%CA\_APM\_CEM\_CMDB\_IntegrationPack

**UNIX**

/opt/CAWily/IntegrationPack/CA\_APM\_CEM\_CMDB\_IntegrationPack

ログ ファイルは <Integration\_Home>%apache-tomcat-5.5.25%logs にあります。

例：

**Windows**

Program Files%CAWily%IntegrationPack%apache-tomcat-5.5.25%logs

**UNIX**

/opt/CAWily/IntegrationPack/apache-tomcat-5.5.25/logs

6. [CA CEM から CA CMDB にデータをインポートします](#) (P. 39)。CA CEM データがインポートされ、CA CMDB が更新されていることを確認します。

CA CEM データを CA CMDB にインポートした後、以下の手順を実行します。

7. CA CMDB を開いて、CA CEM のビジネス サービスおよびビジネス トランザクションが表示されることを確認します（「[CA CMDB を起動して CA CEM 構成アイテムを確認](#) (P. 41)」を参照）。

8. CA CMDB 内の CA CEM オブジェクトの CI を開きます。

- a. [構成アイテムの詳細] ウィンドウで、CA CEM CI の MDR ランチャ ボタン（[属性] タブの右側）をクリックします。

CA CEM コンソールで CA CEM オブジェクトが開きます（事前にコンソールにログインしておく必要があります）。

- b. [構成アイテムの詳細] ウィンドウで、[Visualizer] ボタン（右上）をクリックします。

Visualizer は、データ オブジェクトおよびそれらの関係をグラフィカルに表示します。

## CA CEM の症状と解決策

### CA CEM 統合のトラブルシューティング

- データ転送が遅延する

多数の CI を持つ複数の CA CEM サーバがある場合、[いますぐ実行] を使用してデータを転送すると、データ転送が遅延することがあります。CA CEM サーバのうち 1 台に対してのみ、データ転送がすぐに開始されます。最初の CA CEM サーバのデータ転送が完了するまで、次の CA CEM サーバのデータ転送は開始されません。そのため、大きな遅延が発生することがあります。たとえば、2500 個の CI がある場合、その遅延は 1 時間です。

- CA CMDB に CA CEM オブジェクトが表示されない

MDR プロバイダの作成に失敗しているか、または MDR プロバイダの MDR 名が間違っています。関連付けられている MDR プロバイダを検出できない場合、サービスはデータ インポートを停止します。MDR プロバイダの設定を確認するか、または MDR プロバイダを 1 つ追加して再試行します（「[MDR ランチャの新規データ プロバイダの定義 \(P. 35\)](#)」を参照）。

また、Integration Pack の設定 Web インターフェース内の [CMDB Configuration] タブを参照して、正しい CA CMDB ホスト名が指定されているかどうかを確認します（「[CA CMDB の設定 \(P. 32\)](#)」を参照）。

- 削除された CA CEM オブジェクトが CA CMDB に再び表示されます。

削除したオブジェクトがほかのどの MDR ソースでも使用されていない場合、そのオブジェクトを CA CMDB から削除します。それでも表示される場合は、別の CA CEM ソースに同じオブジェクトが存在していることが考えられます。MDR ランチャの設定を参照して、CA CEM ソースの名前を確認します（「[MDR ランチャの新規データ プロバイダの定義 \(P. 35\)](#)」を参照）。

## CA Introscope® 統合の確認

統合が機能していることを確認するには、いくつかの方法があります。

1. CA Introscope® が実行中であることを確認します。
2. CA CMDB が実行中であることを確認します。
3. CA Introscope®-CA CMDB 統合が実行中であることを確認します。必要に応じて、Tomcat サーバを再起動します。
4. Apache Tomcat Integration Pack サービスがインストールされ開始されていることを確認します。

このサービスは、インストール時に指定した接続ポートを使用しています。（Apache Tomcat Integration Pack サービスは Windows にのみ提供されています。）

5. ログ ファイルを確認します。

インストール ログ ファイルは以下の場所にあります。

<IntegrationPack\_Home> の場所は以下のとおりです。

Windows

*C:\Program Files\CAWily\IntegrationPack*

UNIX

*/opt/CAWily/IntegrationPack*

ログ ファイルは <Integration\_Home>\%apache-tomcat-5.5.25%logs にあります。ログ ファイルは、デフォルトでは以下の場所にあります。

Windows

*<Integration\_home>\%apache-tomcat-5.5.25%logs*

UNIX

*/opt/CAWily/IntegrationPack/apache-tomcat-5.5.25/logs*

6. CA Introscope® データを CA CMDB にインポートします（「[CA Introscope® データのインポート](#) (P. 68)」を参照）。
7. CA Introscope® データがインポートされ、CA CMDB が更新されていることを確認します。

CA Introscope® データを CA CMDB にインポートした後、以下の手順を実行します。
8. CA CMDB を開いて、CA Introscope® アプリケーションの構成アイテムが表示されることを確認します。
  - a. [構成アイテムの詳細] ウィンドウで、Introscope CI の MDR ランチャ ボタン（[属性] タブの右側）をクリックします。

Introscope 管理コンソールで CA Introscope® オブジェクトが開きます（事前にコンソールにログインしておく必要があります）。
  - b. [構成アイテムの詳細] ウィンドウで、[Visualizer] ボタン（右上）をクリックします。

Visualizer は、データ オブジェクトおよびそれらの関係をグラフィカルに表示します。

## CA Introscope® の症状と解決策

### CA Introscope® 統合のトラブルシューティング

- データ転送が遅延する

多数のメトリックを持つ複数の Enterprise Manager がある場合、[いますぐ実行] を使用してデータを転送すると、データ転送が遅延することがあります。そのため、大きな遅延が発生することがあります。たとえば、2500 個の CI がある場合、その遅延は 1 時間です。

- CA CMDB に CA Introscope® オブジェクトが表示されない

MDR プロバイダが作成されていないか、または MDR プロバイダの MDR 名が間違っています。関連付けられている MDR プロバイダを検出できない場合、サービスはデータ インポートを停止します。MDR プロバイダの設定を確認するか、または MDR プロバイダを 1 つ追加して再実行します（「[MDR ランチャの設定 \(P. 60\)](#)」を参照）。

また、CA Introscope®-CA CMDB 統合設定 Web インターフェイス内の [CMDB Configuration] タブを参照して、正しい CA CMDB ホスト名が指定されているかどうかを確認します。（「[\[CMDB Configuration\] タブ \(P. 64\)](#)」を参照）。

- 削除した CA Introscope® オブジェクトが CA CMDB に再表示される

削除したオブジェクトがほかのどの MDR ソースでも使用されていない場合、そのオブジェクトを CA CMDB から削除します。それでも表示される場合は、別の Enterprise Manager ソースに同じオブジェクトが存在していることが考えられます。MDR ランチャの設定を参照して、Enterprise Manager ソースの名前を確認します。（「[MDR ランチャの新規データ プロバイダの定義 \(P. 61\)](#)」を参照）。